

国内大学との併願戦略

進路選択の幅が広がる今、高校生の中で「国内大学と海外大学の併願」という選択肢が注目されています。特に、国内の総合型選抜（旧 AO 入試）との親和性が高く、スケジュールや書類が共通することから、準備の負担を抑えながら併願することが可能です。

この記事では、併願の具体的な方法や、海外大学と国内大学それぞれの出願時期、必要な書類、成功のポイントについて、併願を初めて検討する生徒のみなさんや保護者の方々にも分かりやすく解説します。

【併願は本当に可能？—スケジュールから両立の現実性を考える】

多くの方がまず疑問に思うのが、「国内と海外の大学、両方に出願することは可能なのか？」という点です。答えは“YES”です。なぜなら、それぞれの出願スケジュールは近い日程ですが完全には重ならないため、同時進行で準備・出願することができるからです。

■国内大学の出願時期（国公立・私立の一般的な例）

- ・総合型選抜：9月～10月出願、10月～11月実施
- ・学校推薦型選抜：9月～11月出願、11月～12月実施
- ・一般選抜：12月～2月出願、1月～3月実施
- ・共通テスト利用：9月下旬～10月上旬出願、1月実施

■海外大学の出願時期（一般的な例）

- ・アメリカ：10～11月で早期出願(EA/ED)。通常出願は1月上旬、合否発表は3月以降

□ED（Early Decision）の場合は合格したら入学必須

□EA（Early Action）の場合は合格後入学有無を選択可能。

□期間内に出願した人の中から優秀な順に合格するのが一般的

- ・イギリス：9～10月出願開始、1月中旬頃まで受付

□出願条件を満たしている受験生が出願順で合格するのが一般的

□アートやデザイン系の学部は3月まで受け付けている場合もある

- ・カナダ・オーストラリア・シンガポール：10月～翌年3月にかけて出願可能

□大学によって異なるため注意

国内大学の総合型選抜と、海外大学の早期出願時期は近いですが、タイミングは完全には重なりません。しかも、どちらも「学力試験」よりも「書類・面接・志望理由」が重視される選考方式のため、準備の共通化が可能です。

【総合型選抜と海外大学出願の「共通点」】

国内外の出願で共通する要素には以下のようなものがあります。必要な要素は大学によって異なります。

- ・ 志望理由書
- ・ エッセイ、小論文
- ・ 活動報告書（ボランティア、探究、課外活動など）
- ・ 推薦状（教員、指導者から）
- ・ 面接やプレゼンテーション能力

これらは、国内大学の総合型選抜と、海外大学出願（特にアメリカ、シンガポール、イギリスの一部大学）でともに求められる要素です。

つまり、高2～高3前半までにしっかりと志望理由を言語化し、活動実績を蓄積していれば、国内・海外どちらにも“使える”準備が整っていると言えます。

【英語試験はどうする？国内・海外で使えるスコアとは】

海外大学の出願では、TOEFL iBT、IELTSなどのスコアが必要です。

目安は：TOEFL iBT：61～100点以上、IELTS：6.0～7.5

一方、国内大学の一般入試では近年「英語外部試験利用入試」が増えており、英検やTOEFL、IELTSスコアで出願資格を得られる大学が多数あります。総合型選抜では、英語スコアの提出が求められるケースが増えています。

つまり、英語試験対策が“国内・海外併願”にそのまま活用できるケースが増えているのです。ただし、一般的にはIELTSやTOEFLスコアを利用した海外大学の出願が一般的ですので、出願する大学が英検を利用できるか事前に確認しておく必要があります。

【必要書類はどう準備する？】

国内大学、海外大学で必要となる書類には、次のようなものがあります。

■国内大学（総合型選抜）

- ・ 調査書（成績証明書）
- ・ 志望理由書
- ・ 活動報告書（ポートフォリオ）

■海外大学

- ・成績証明書（英文）
- ・英語試験スコア（TOEFL/IELTS など）
- ・Personal Statement（志望理由書）
- ・推薦状（数名からの推薦が必要な場合あり）
- ・活動実績（課外活動、表彰など）

書類の構成は異なりますが、核となる要素（志望動機、将来像、活動の裏付けなど）はほぼ同じです。海外大学の出願で求められる英語エッセイも、国内用の志望理由書をもとに発展させることができます。

【併願受験を成功させるポイント】

併願を成功させるためのポイントは以下のとおりです。

- ・情報収集・スケジュール管理を徹底：遅くとも高2の夏には希望大学の出願時期や必要な英語力を調べ、全体計画を立てる。
- ・早めに先生に相談：推薦状や調査書の依頼は余裕をもって行う。
- ・書類作成は汎用性を意識：志望理由の軸を一つに定める。
- ・英語試験は早めに受験：遅くとも高3春までに海外大学の出願に必要なスコアを取得する。

【まとめ】

国内大学と海外大学の併願は、進路の選択肢を広げる戦略的なアプローチです。自分の未来を「国内か、海外か」ではなく、「どんな学びをしたいか」「どこで自分を伸ばせるか」で選ぶことが、これからの進路選択の鍵になります。

学校の先生や家庭内でよく話し合いながら、自分に合った進路を選択しましょう。